



阿南 久氏からのご意見

工場を活用した食育、教育

- 昨日、工場を見学し、徹底した品質管理がなされていると思いました。コースを歩いていますと、きちんとチェックして最終製品がどのように安全性が確保されているのか、分かりやすくなっていますので、大変いいコースで、ここに子供たちや消費者が来て見るだけでもいい勉強になると思いました。
- お茶の文化を提唱して引き継いでいくということは、日本型の食生活に大いに寄与すると思っています。このお茶をどのように食生活に取り込んでいくのか、日本人の健康の維持だとか、非常に重要な役割を持っています。お茶文化を消費者共有のものにしていく食育活動がとても大事だと思いました。
- PETボトルの開発により日常生活にお茶を取り込む若い人が増えています。緑茶の効能に関して、意外と認知度が高いことは大変に大きな芽なので、その情報がもう少しきちんと伝われば、飲む人が増えると思います。もっと若い人の要望に応えられるように、テレビの商業的だけでなく色々な情報発信の工夫や展開をすべきではないでしょうか。

製品の安全・安心

- 消費者は放射性物質の問題にも非常に関心が高く、検査の情報をきちんと伝えていただければ、消費者は正しい選択ができます。食育活動の中で、こうした情報の啓発もやっていただきたいと思っています。

環境対応

- 環境を企業の一大コンセプトとして位置づけていくことが必要だと思います。御社が環境の取組みをアピールすることは、日本の環境を守ることにもつながると思います。



阿南 久氏
全国消費者団体連絡会事務局長

伊藤園の対応

- 入社以来品質管理を担当し、伊藤園のリーフ、ドリンク、特にドリンクの生産委託から最終製品までのシステムを立ち上げてきました。経営理念『お客様第一主義』を実践し、品質の良い物、安全性の高い物をお客様に提供することを第一に考えて、設計から最終製品までの品質管理を行っています。
(田熊・生産本部副本部長 品質管理1部長)
- 緑茶原料については2011年度産の全ての荒茶、仕上げ茶(製茶)について、放射線量測定器による自主検査を行っています。また全ての飲料製品についても製造委託工場にて放射線量の監視、使用する水の検査および最終製品の製造日ロットごとの検査を放射線量測定器を用いて実施しています。
(安藤・取締役 生産本部副本部長)
- 文化という意味では、お茶をどのように広めていくかを検討し、消費の感度を当社の茶十徳などの小売(専門店、百貨店)を活用した店舗などで捉え、それをまた生産に活かすことにしています。
最近では、松江や金沢城の茶会などに積極的に参加しています。
また、当社にはティーテイスター制度があって、約5,000人の社員のうち約1,000人が資格を保有しています。この資格を活かした食育活動も行なっています。
(笹谷・取締役 CSR担当)